

組織目標評価報告書(2019年度)

部局名:

附属図書館

部局長名:

今津勝紀

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
附属図書館は、自主学修向上のために文献探索等のガイダンス・セミナー等を積極的に開催する。特にアカデミックライティングについて着実にサポートしていく。また、グローバル化を意識した自主学修環境を継続して整備するとともに蔵書環境についても計画的に整備していく。	14-1	自主学修向上のためにレポート作成の基礎となる文献検索ガイダンスを農学部、法学部等で授業として4回実施し、計79名が受講した。また、文献収集のためのデータベース講習会を中央図書館及び分館で多数実施し、併せて353名が参加した。 アカデミックライティングをサポートするため、「30分で学ぶ!レポート作成支援講座」を36回開催し、延べ352名が参加した。ライティング・サポート・セミナーについては昨年度から引き続いて農学部への出張講座に加え、文学部でも授業として(2学部計146名受講)を拡大開催した。さらに、論文のアクセプト向上を目的とした英語論文投稿セミナーを2地区新たに開催し、147名が参加した。 附属図書館の自主学修環境の整備を進めるために、全学生を対象としたアンケート(英語版もあり)を実施した(11月5日~12月13日)。今後、分析を進め、学生のニーズも取り込んだ学修環境の整備を実施する予定としている。
③社会貢献(診療を含む)領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況
附属図書館が所蔵している資料、特に貴重資料について継続して展示会を開催すると共にデジタル化を進め、国内外への発信を拡充する。 学生・市民が参加できる公開講座・各種セミナー・展示等を積極的に開催して「異分野・異社会との交流の場」として学内外の交流を深める。	14-1	貴重資料のデジタル化を進め、絵図及び絵図的な資料をデジタル化し、3月に公開した。これにより池田家文庫の絵図資料については公開可能なほぼ全点をデジタル公開できた。 異世代・異文化交流の活性化のための「知好楽セミナー」について、第23回「市民とともに育つ図書館をめざして~瀬戸内市民図書館の実践~」(10月28日)、第24回「気象と音楽 一季節サイクルの中でみるドイツや日本の「春」と「歌」」(11月29日)、第25回「出会いと別れ アインシュタイン氏の第3の次元」(1月23日)の計3回開催した。参加者延べ93名には、学部生、大学院生、教職員の他、学外者12名も含んでおり、異世代・異文化交流の場を創出した。 9月には市民等を対象とした公開講座「江戸時代の倉敷の町の成り立ち」を実施し、55名の参加があった。11月には恒例となっている池田家文庫絵図展「武家と天皇」を開催した。来場者は1,789名であり、前年度に比べ26%増加した。
④管理運営領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域の目標の達成状況
附属図書館運営委員会を開催して、着実な組織運営に努めるとともに、館内におけるミーティングを定期的で開催し、内部統制を推進する。また、安全衛生やセキュリティ等の講習を職員に積極的に受講させ、法令遵守等に対する意識を向上させる。	92	毎週の部課長打合せや毎月の主査等会議において情報共有を図っている。また、図書館全体の運営に関して、附属図書館運営委員会を3回開催し、組織における諸課題について学内からの意見を伺いながら運営を進めた。 また、情報セキュリティ講習会(E-Learning)は100%の受講率になるなど各種講習会等も積極的に受講している。さらに部局独自のハラスメント講習会を分館も受講できるよう工夫して開催し、法令遵守に対する意識向上を図っている。
⑤センター・機構等業務		
	目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域の目標の達成状況
附属図書館は、本学の学修・研究の基盤となる電子ジャーナル・データベース・電子書籍等について学内ワーキング等を主導して計画的に整備をしていく。また、学術論文のオープンアクセスに推進し、研究成果の発信を拡充していく。	44-1	電子リソースの整備方針に基づき令和2年度の電子ジャーナル等経費について、予算を確保するとともにコアタイトルの確認とその他のタイトルについて選定作業及び契約を着実に進めた。さらに、第4期における本学の電子ジャーナルについて、Q1ジャーナルや学内アンケート等各種エビデンスを基に本学における電子ジャーナルの見直し作業に着手した。 また、本学の学術成果の発信については、APIを活用した本学研究者の論文の自動収集機能によりリポジトリへの採録の効率化を図った結果、論文登録数の増加と利用ダウンロード数が増加した。 蔵書については、狭隘化を解消するため重複資料を中心とした除籍を進める一方で、除籍対象図書の再貸出しを行うなど資料の利活用を進めた。また、電子書籍(洋書)のリクエスト制度を導入したり、英語学修の向上を目指した多言語図書(電子)のサブスクリプション利用を試行的に導入した。